

# 「父に生きた人！！」 ～父に生きるとき神の計画が成し遂げられる～

ヘブル11：22 創世記50：1-22

## ■ ヨセフの最期の時について

『信仰によってヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。』（ヘブル 11：22）ヘブル人への手紙 11 章は、聖書に出て来る多くの先達たちが、信仰によってどのように行動したかが綴られています。そして 22 節では、ヨセフの最期のときについて記されていて、その詳細については創世記 50 章に残されています。

## ■ ヨセフの父ヤコブの死

父ヤコブが死に、ヨセフは顔に取りすがって泣きました。ヨセフは父と再会し、親子の関係が回復してヤコブが死ぬまでの 14 年間、幸せな時を過ごしました。ヨセフは医者に命じてヤコブをミイラにさせます。70 日間（パロの葬儀は 72 日だったのでそれより 2 日だけ少ない）の喪が明けて、ヨセフは父を葬るために上って行かせてほしいと、パロの家の者に願ひ出ました。この時ヨセフはエジプトのナンバー 2 になっていたのですが、わざわざへり下って願ひ出たのです。ヨセフは子どもの頃の高慢な姿から、変貌を遂げていたのです。ヨセフの人生には様々な苦難があり、投げ出したくなるような中でもヨセフは諦めず最善を尽くし変えられていきました。同じように、私たちも諦めず最後まで耐え忍ぶとき、神様の計り知れない計画が実現し、救いが起こることを信じましょう。

## ■ 兄弟たちの不安とヨセフの赦し

ヤコブの葬儀が終わった後、ヨセフの兄弟たちはヨセフが妬んで仕返しをするのではと不安になりました。そして、人に頼んで「ヨセフに悪いことをしたが、兄弟を赦してほしい」という父の偽の遺言をヨセフに伝えました。兄弟たちはヨセフが仕返しをすると思い込み（ヨセフを悪者にし）、直接話すべきだった内容を、人に頼んでしまったのです。人間の心にある不安は思い込みを引き起こし、不必要なことを行い、素晴らしい神様の計画を壊してしまう弱さがあります。ヨセフはそれを聞いて、エジプトで 14 年養った兄弟たちがまだ自分のことを疑っていることと分かり、悲しみのあまり泣いてしまいます。ヨセフは神の前で悲しむ人に変えられていました。兄弟たちはヨセフの前にひれ伏し、「私たちはあなたの奴隷です」と言いますが、この時の兄弟たちは、自分たちに仕返しが来ないようにするため、本心ではなくへり下っている演技をしていました。そんな兄弟たちに対してヨセフは、「恐れることはありません。どうして私が神の代わりでしょうか。」と応えます。確かに自分に対して悪いことをしたけど、人を裁くのは自分ではない、だから恐れなくていいとヨセフは伝えたのでした。そして、兄弟がしたことも含めて、神がよいことのための計らいとなさったと言います。

## ■ 諦めずに意味を見出して生きる

『それはきょうのようにして多くの人々を生かしておくためでした。ですから、もう恐れることはありません。私は、あなたがたや、あなたの方の子どもたちを養いましょう。』（創世記 50：20～21）とヨセフは兄弟たちに語ります。そして、自分に対して悪を働いた兄弟たちに対して赦し、これからも養うと宣言します。幼少期高慢だったヨセフの姿はそこにはなく、まるで父親のように兄弟たちを養うヨセフとなりました。ヨセフは苦難の人生を通して、諦めることなく意味を求め続け最善を尽くしてきたことで、全てのことが神の計らいだと知ることができたのでした。

ヨセフはそうして兄弟たちを養いながら、110 歳まで生きたと聖書に書かれています。エジプトの最高の栄冠は 110 歳まで生きることだと言われています。つまりヨセフは、エジプトの栄光を最後の最後まで受けてこの世を去ったのです。全てを捨てたからこそ、全てを得ることができたのでした。その反対に、得ようとする者は全てを失ってしまいます。そしてヘブル人への手紙に書かれているように、この後ヨセフは自分の骨と自分の民がどのようにして故郷に帰るのかを預言します。ヨセフはそれを信じて行動し続けたのでした。私たちは、苦しみの中で意味を見出すことで、その苦しみを乗り越える力が湧いてきます。

『信仰は望んでいる事がらを保障し、目に見えないものを確信させるものです。』（ヘブル 11：1）

地中にある宝を掘り続ける 2 人のアニメーションを見ました。1 人は少し掘っては見つからず、次を掘ってまた見つからず、不満になり「やっても無駄だ」と腹を立てては投げ出し、諦めてしまいます。反対にもう 1 人の人は宝があると信じて諦めずに掘り続け、最後の宝を手に入れることができました。聖書は諦めずに信じて行動し続けた人たちが記されています。必ず宝があるのに、諦めるともったいないですね。

諦めないと奇跡が起こります。私たちは、どちらかを選ぶことができます。あなたはどちらを選びますか？

## ■ 父に生きるとき、神の計画が成し遂げられる

### ①失敗や苦難を益として成長させる神

諦めず向き合うときに神は働いてくださいます。「逃げる、向き合わない」が一番の罪です。愛の反対は無関心だからです。

### ②尊敬を受ける生き方へ

自己との決別。人々から尊敬されるようにならなければ、神の栄光を光輝かすことができません。ヨセフは、エジプトで異国民でありながら、父親を王と同じ程度の葬儀を受けるような人物になっていました。エジプトで知恵深く生きる中で、ヨセフは幼少の頃からの高慢な自己と決別し、尊敬されるようになっていたのです。私たちも私利私欲を捨てて、尊敬される人物を目指していきましょう。

### ③意味を見出す道

苦しみ方を変える道。意味がないことは一つありません。イエス様は意味が見いだせないような、一番底辺でお生まれになりました。しかし、私たちの心の暗闇に生まれる意味があったのです。私たちは苦しい道を歩むときもありますが、イエス様は「私が背負う。だから立て」と言ってくださっています。だから私たちも、苦しみの中で、苦しむ方法を変えてくなくてはなりません。

### ④絶対に曲げてはいけないこと

ヨセフは家族が来た時、エジプトの習慣に飲まれることなく、妥協せず、イスラエルの生活が維持できるように、曲げてはいけない部分をしっかりと握っていました。私たちも、周りの影響を受けて右往左往することなく、揺れ動くことのない岩盤の上に立ちたいと思います。

### ⑤呪いを祝福に変える神

恐れと不安は怒りと嫉妬しか生みません。私たちの人生で最も尊いものは「赦し」です。私たちは赦すことができない弱い存在ですが、そんな弱い私たちのためにイエス様が十字架にかかってくくださったのです。だから私たちは、たとえ赦せない心を抱えていたとしても「イエスの御名によって赦します」と宣言することで、神様が力を与えて下さり、赦されるようにしてくださいます。神様は和解と回復を与えたいと思ってくださっています。

## ■ 神様が傷と痛みを回復してくださる

私たちはいつも不安をもたられ、それによって脅かされてしまいます。人生には苦しいことがあり、そのたびに痛みや苦しみが増え上がってきます。まるで水が減って、隠れていた岩（傷や痛み）が現れるようです。私たちはそんな水が減ったときに飛び込み、その岩を見ては囚われてしまいます。しかし神様の方法は、その場所を一度干涸びにして、岩を現わしその岩を覆い慰め、イエス様が背負って取り去ってくださいます。

## ■ 神様はたった一人をおこされる

朝鮮戦争でアメリカ軍の兵士だったフィリップ・クロスビーは、捕虜となってしまいます。「もう立てない」と倒れる彼に対して、仲間が「イエスキリストはこの苦しい戦争をも背負われた。あなたは本当に立てないのか」とイエス様の愛を伝えました。フィリップは力を得て立ち上がり、捕虜からも救出され、愛を伝えるコンサルタントになりました。残酷な歴史の中にあっても、神様は名もない一人をおこされます。ヨセフも、神様によっておこされ、時代の流れに反しても諦めず行い続けたのでした。私たちも、大きな時代の流れの渦の中で、それに飲み込まれることなく、真理と真実を見出そうと諦めずに求め続けていきましょう。

## お祈り

神様。私は弱く、自己を捨てられず、苦しみが訪れるとすぐに向き合うのを諦めたくります。誰かのせいにして、裁く心が出てきます。どうか神様、ヨセフのように苦しみにあうとき、苦しみ方を変え、その中にあっても意味を探し続けることができますように。恐れと不安を捨て、和解と回復を与える神様を信じ、「イエスの御名によって赦します」と宣言していきたいです。私たち一人一人が絶対に曲げてはいけないものをしっかりと握り、神様の固い岩盤に立ち、諦めず神様が備えてくださる宝を掘り続けることができますように。

（要約者：神達 良子）

（2024年7月7日）